

令和5年度 第2回あきる野市障害者虐待防止ネットワーク会議

- 1 期日 令和6年3月25日（月）
- 2 委員 障害者虐待防止ネットワーク会議委員14人
（福祉関係者6人、保健・医療関係者2人、教育関係者1人、法律関係者1人、
関係機関の職員3人、市職員1人）
- 3 報告
 - （1）障害者虐待防止に関する調査の結果報告について
 - （2）令和5年度障害者虐待通報、相談の対応状況報告について
 - （3）令和5年度障害者虐待防止事業報告について
- 4 議事
令和6年度障害者虐待防止対策事業計画（案）について
- 5 その他
情報提供、情報共有
- 6 閉会

委員意見等

意見：グループホームには男女ともに利用者が居るが、職員が1人体制のこともあるため、同性介助ができないこともある。

事務局：利用者の性別や職員体制などを加味し、同性介助を一律で禁止しているものではないため、利用者の気持ちに配慮して対応していただきたい。

意見：障害福祉サービス事業所内で利用者の呼称について、「(名前)ちゃん」やニックネームで呼ぶことが問題になることがある。

事務局：意思決定支援の観点から、呼称については利用者や保護者の意思を確認することが必要であると思われる。

意見：障がい児に関する虐待相談の際には、特に心理的サポートが必要であると思われるため、寄り添ってサポートしてくれる人が必要なのではないか。

事務局：関係を良好に築いていただいている計画相談支援事業所職員などに継続したサポートをお願いしている。

意見：精神科疾患で妄想的な訴えがある人が医療中断をしている障がい者が虐待を訴えた場合は、訴えが真実なのかの判断は難しいのではないかと。

事務局：治療優先の事例もあり、受診ができるように保健所等と連携し、サポートしている。

意見：障がい者や養護者が孤立しないよう、虐待情報をキャッチしたら事業所間で共有し、相談窓口などに相談することが大事。

意見：事業所の利用歴が長いほど利用者と職員間の距離感がお互いに近くなる。呼称についても、取り組むことは難しいことではないが、馴れ合いの中で注意し合うことは難しい。虐待防止の気づきのきっかけになるように研修等を受講していくことが必要。

意見：虐待相談件数が増えているように感じるが、どのように分析しているか。

事務局：障害福祉サービス事業所が増えてきたことも一つの要因かもしれない。虐待相談の件数が増えたことは、事業所に対する虐待防止の周知・啓発活動の効果もあると考えたい。

その他

令和6年度第1回障害者虐待防止ネットワーク会議予定 令和6年7月頃

以上